

高山帯におけるキセキレイの繁殖記録

澤 祐介

京都大学大学院理学研究科動物生態学研究室 〒606-8502 京都府京都市左京区北白川追分町

はじめに

キセキレイ *Motacilla cinerea* は九州から北海道にかけて広く繁殖が確認されている。本州では平地から高地まで、水辺を中心にごく普通に生息するとされ (Takano 1982), 水田に囲まれた集落の周辺, 中小の河川やその周辺の住宅地などで多く繁殖している (大迫 1996, 平野 1985)。また, 盛夏には, 北アルプス地方の標高2400~2900mほどの雪渓などにも普通に生息するとされているが, 確実な繁殖の記録はされていない (環境庁 1981)。筆者は2006年 7月に標高2700mの高山帯においてキセキレイの繁殖を確認したのでここに報告する。

観察地

観察地は岐阜県乗鞍岳の畳平周辺で, 標高は2700mである。乗鞍岳は北アルプス (飛騨山脈) の南端で, 長野県松本市の南西約35km, 岐阜県高山市の東約25kmに位置している。乗鞍岳における最高峰は剣ヶ峰 (3026m) であり, 標高2400~2500m付近が森林限界になっており, それより上部にはハイマツ帯などの高山植生が広がっている (清水 1990)。観察地の畳平周辺には道路や小屋などの人工物, 火口湖, ハイマツ低木林などがみられる (図 1)。

観察結果

筆者は2006年 5月中旬から乗鞍岳に週に 3~4日の間隔で訪れているが, 5月下旬から畳平周辺でキセキレイをたびたび目撃しており, 7月中旬には畳平にある鶴の小屋の付近で頻繁に飛翔しているのを観察した。

7月19日に鶴の小屋周辺を探索したところ, 軒下に土や枯草が集められているのを発見した。その後 7月27日にはしごをもちいて付近の確認を行ない, 抱卵中のキセキレイ雌 1羽と巣を確認した。巣は小屋の屋根の軒下, 地上から高さ約 3mのところにあった。

8月2日には巣の周辺に雌雄のペア, 巣内には 3羽のヒナを確認できた (図 2)。これらのペアによる巣への出入りも観察された。親鳥はおもに巣の近くにある鶴の池で採餌を行っていた。また,

2007年 3月14日 受理

キーワード : 繁殖記録, 高山帯, キセキレイ



図 1. 観察地全体. 矢印は観察地点となった小屋.

Fig. 1. Observation area. Arrowed line is pointing to the hut of observation spot.

図 2. キセキレイの巣内ビナ.

Fig. 2. Gray Wagtail's nestlings.

発見された巣から50cmほど離れたところに、キセキレイのものと思われる古巣を発見した。8月17日に再び確認したところ、ヒナはすでに巣立っていた。

考察

キセキレイの典型的な繁殖地はCrampほか(1985)によると、(1)新鮮な水、特に流れの速い川、また運河や低地の河川や湖岸など。(2)岩場や垂直に切り立った岩肌、砂利や砂礫、堰や運河などにある閘門や排水溝、壁や屋根などの人工物。(3)避難場所としての木、低木、密な草本。(4)営巣のための穴、くぼみ、岩棚、といった4つの環境を含んでいるとされている。

Cramp & Simmons(1985)では、スイスにおける森林限界より上部となる標高1600m以上での繁殖、モロッコにおける標高3000m以上の高地での繁殖が記載されており、上記(1)～(4)の環境は高地や山地の河川などにおいて出現しやすいが、高山帯にもしばしば出現する。

今回観察した巣の周辺には、火口原湖である鶴の池や湿生のお花畑などの水辺、岩場・砂礫地、山小屋やバスターミナル等の人工物、ハイマツの低木林や高山性草原、営巣場所(小屋の軒下)があり、繁殖場所の条件は満たされていた。営巣場所については、日本では屋根の瓦の間や雨樋、地上の石陰など多様な環境に作られていることから(羽田健三・市川武彦 1967)、軒下は特殊な営巣場所ではないと考えられる。また、古巣があることから今回がはじめての繁殖ではないと思われる。

日本産鳥類の繁殖分布(環境庁 1981)によると、盛夏には北アルプス地方の標高2400～2900mほどの雪渓などにも普通に生息するとされており、乗鞍岳以外でも筆者は、7月23日に北アルプスの鹿島槍ヶ岳山頂(2889m)付近で飛翔するキセキレイを観察している。

このように、海外では森林限界以上の高地で繁殖すること、夏期には北アルプスの山々で観察されていることなどから、繁殖に適した環境が存在すれば、キセキレイは日本の高山帯でも普通に繁殖する可能性がある。乗鞍岳は1万年前から7千年前に完成した新しい火山帯であり、穏やかな山容を呈している。一方、他の北アルプスの山岳は少なくとも100万年前には3000m前後の高さにあり、長期間の侵食を受け険しい地形になっており、乗鞍岳とは極端に対照的な地形をしている(牛丸 1969)。このような険しい地形でも繁殖できるかどうかは不明である。日本の高山帯においてキセキレイがどの程度普通に繁殖しているかは今後の調査を待ちたい。

謝 辞

京都大学大学院理学研究科動物行動学研究室の松原始氏、同大学動物生態学研究室の西浩孝氏、雀部正毅氏には本稿をまとめるにあたり適切な助言をいただいた。また、高山市役所丹生川支所産業振興課の本山氏、中部森林管理局の森林パトロールの方々、JR東海乗鞍山荘の方々、岐阜県環境パトロールの方々には現地での調査にご協力いただいた。末筆ではあるが、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

引用文献

- Cramp, S. & Simmons, K.E.L. 1985. Handbook of the Birds of Europe the Middle East and North Africa. Oxford University Press, New York.
- 羽田健三・市川武彦. 1967. キセキレイの生活史に関する研究 I. 日本生態学会誌 17: 93-100.
- 平野敏明. 1985. 宇都宮市におけるセキレイ類 3種の繁殖環境. Strix 4: 1-8.
- 環境庁. 1981. 日本産鳥類の繁殖分布. 大蔵省印刷局, 東京.
- 大迫義人. 1996. 福井県大野盆地における夏期のセキレイ類の分布とハクセキレイの繁殖. Strix 14: 107-112.
- 清水建美. 1990. 乗鞍の自然. 信濃毎日新聞社, 長野.
- Takano, S. 1982. A field guide to the birds of Japan. Wild Bird Society of Japan, Tokyo.
- 牛丸周太郎. 1969. 乗鞍火山の地形・地質. 日本自然保護協会調査報告 36: 21-48.

Breeding record of Gray Wagtail above the treeline

Yusuke Sawa

Department of Zoology, Graduate School of Science, Kyoto University.

Kitashirakawa oiwakecho, Sakyo, Kyoto, 606-8502, Japan

In Japan, Gray Wagtail *Motacilla cinerea* usually breeds by streams in both lowland and upland areas, and in the height of summer, it is often observed above the treeline. On July 27, 2006, a nest containing nestlings of this species were found on Mt. Norikuradake (altitude 2700m). This is the first breeding record of *M. cinerea* above the treeline in Japan.

Key words: breeding record, treeline, Motacilla cinerea